

2023年3月6日

2022年度 ALL DOSHISHA 共修プログラム
実施プロジェクト成果報告書

プロジェクトタイトル
Enjoy Kyotanabe's Campus Life!

プロジェクトメンバー			
役職	氏名	学科専攻	学年
リーダー	山本小夏	機能分子・生命化学科	B2
	村上心音	機能分子・生命化学科	B1
	羽田慎之介	機械システム工学科	B1
	倉本あかり	機能分子・生命化学科	B1
	Hadded Antonia-Nancy	応用化学専攻	D2
	Izdihar Hilal Amur Al Hajri	機械工学専攻	M2
	Mervlyn Lalu Mohe	応用化学専攻	

支出経費			
支出項目	単価 (円)	数量	小計 (円)
パンフレット (8 ページ観音)	—	500 部	165,000
		合計	165,000 円

プロジェクトの目的と狙い

海外の学生に同志社大学の ISTC を進路選択の有力候補にしてもらうために、京田辺キャンパスの魅力を発信することが目的である。留学において学生が最も不安に感じることは異国の地での生活であり、留学先がどんな街なのか、学生がどのような生活を送っているかは海外の学生にとって留学先を決定する重要な要素となる。京田辺での生活をよりリアルに伝え、ISTC の留学先としての良さを伝えることが狙いである。

プロジェクトの実施内容（1 ページ以上）

- 取り組んだ実施内容を時系列にかつ具体的に記入してください。
- 誰がどのような役割で何をしたかも分かるように記入してください。
- 適宜、取組状況の画像データを貼付いただいても結構です（様式の半分以内の分量とします）。

太平印刷株式会社によるワークショップを通じて SWOT 分析を用い、同志社大学を留学候補先として考えた際の強みと弱みを思考した。ワークショップで挙げられた課題をもとに、同志社大学の ISTC への留学を魅力的に感じさせるためには、京田辺キャンパスの良さを発信と日本での生活を快適に送るために必要な日本独自のマナーやルールを知ってもらうことであると思案された。この2つの目的を大成するために最も良い手段として、京田辺での生活をまとめたパンフレットと同志社大学での1日の生活の中に日本独自のルールなどを盛り込んだ動画の制作を決定した。その後日本人学生と留学生のバランスを考慮しながら、パンフレットと動画作成チームに分かれ、私たちのチームはパンフレット作成を担当することとなった。

パンフレット制作にあたり海外の学生に京田辺での生活を紹介し、ISTC への留学に関心を持ってもらうために以下の3点に沿って進めていくことを決定した。

- ・京田辺キャンパスの四季の様子
- ・生活に必要な不可欠な施設の表記した京田辺キャンパス周辺の地図
- ・月平均の生活費などの紹介

これら3点をグループ内で担当を決め、パンフレットの制作にあたった。

京田辺キャンパスの四季の様子は村上心音、Izdihar Hilal Amur Al Hajri が担当し、キャンパス内の桜や紅葉のような日本の四季を感じられる写真を載せることを決定した。しかし、それらの写真だけでは京田辺キャンパスの紹介を十分にできておらず、本来の目的から逸れてしまっていたので、クローバー祭やクリスマスツリーの点灯式の様子などのイベントの写真を記載や、雨が降っていたりする日常の様子の写真も掲載した。

京田辺周辺の地図制作は羽田慎之介、倉本あかりが担当し、国土地理院の規定に基づいて地図制作にあたった。店名などの詳細な情報を掲載するための許可取得が困難であるため、簡易なマークで大まかな情報を記載することにした。しかし、海外の学生にとって必要な情報とそうではない情報に取捨選択した結果、手書きで書いたようなシンプルな地図が最も適していると考え、最終的に手書きで地図を作成することにした。

月平均の生活費などの紹介は山本小夏、Hadded Antonia-Nancy、Mervlyn Lalu Mohe が担当し、ISTC の学生にアンケートをオンライン媒体 (Microsoft forms) で実施した。

アンケートの内容は家賃や光熱費、食費などの尋ねたい案をリストアップし、その中から質問事項を決めた。アンケートを作成する過程で、パンフレットに京田辺に住む学生が ISTC での生活を通して感じた困難と解決策も紹介することで、これから留学する学生と留学に興味のある学生にとって有益なパンフレットになるのでは、という意見が上がった。そこで、生活費に関すること以外での悩みや失敗談を聞く質問を最後に加えた。そのアンケート結果に基づいて月の生活費や娯楽費用などをグラフ化し、Q&A のページで困ったことに対する解決策をまとめた。

また、当初は、地図のページの Q&A と生活費のページの Q&A が離れたページに別々に紹介されていたが、パンフレットの統一感や、読み手がスムーズに情報を得られるように、この2つのコンテンツをまとめて紹介することにした。

また、最後のページには大阪や奈良、神戸、京都市内までのアクセスを表記するとともに、各地の観光名所の紹介と観光協会、京田辺市の在住外国人向けページなどの QR コードを貼った。最後にこれらをまとめ、京田辺での生活は経済的に優しく、公共交通機関も整備されているので豊かな生活が送れるという内容と、同志社大学のキャンパスのイメージを持ってもらえるような写真を盛り込んだデザインのパンフレットに仕上げた。

プロジェクトの成果（1 ページ以上）

- 当初計画していた達成目標と比較して成果を記入してください。
- プロジェクト開始時からどのような能力が向上したかを記入してください。
 - ・グローバルマインドの3要素（①グローバルな視野、②多様性の尊重、③異文化理解）
 - ・社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素 ①前に踏み出す力（主体性／働きかけ力／実行力）②考え抜く力（課題発見力／計画力／創造力）
③チームで働く力（発信力／傾聴力／柔軟性／状況把握力／規律性／ストレスコントロール力）
- 当初計画していた目標に至らなかった場合は、①何が実施・実現できなかったのか。②その要因は何か。③考える解決策 を具体的に記入してください。

当初の計画は同志社大学の ISTC を留学先の有力候補としてもらうこと、海外の学生に京田辺での生活を知ってもらうことを目標としていた。これらの目標達成のため、一目であらゆる情報収集のできるパンフレットの作成が最も適した方法であると考え、制作に至ったが、記載する情報の選択が大変困難であった。ワークショップやメンバーとのミーティングを重ねた結果、留学生にとって留学先の地理や環境、留学中の生活に関わる費用が最も懸念される問題であることがわかった。しかし、同志社大学周辺の情報や、主要都市までのアクセス、観光地を記載し過ぎてしまうと留学誘致のパンフレットではなく、観光マップになってしまうという問題が発生した。そこで、キャンパスの四季の様子や大学内でのイベントの写真を掲載し、留学生や留学を検討している海外の学生にとって有益である情報を集め、記載することで、当初の目標通り十分に同志社への留学を魅力的にするパンフレットができたと思う。

プロジェクトを通して多くの困難に直面した。まず、日本人学生が留学生の考えを想像することは容易くなかった。しかし、チームの留学生から話を聞くことで新たな発見や海外学生の意見の理解につながった。たとえば主要な都市へのアクセスを記載するページを作成している際、日本人学生は大阪駅と難波へのアクセスのそれぞれを載せることに賛成したが、留学生は大阪駅のみ記載が良いというように意見が割れた。関西で生活する人にとって、大阪と難波は全く別の場所であるという認識だが、日本で新しく生活を始めた外国人にとっては同じ大阪市内であるからどちらか一つの記載で良いという主張だった。このことがきっかけで、自分達のチームが制作しているのは海外の学生のためのものであることを再認識させられた。このように、海外の学生の視点から日本を見ることは新たな発見や気づきをもたらし、それがグローバルマインドの成長へ役立ち、想像力が育まれた。また、どのようにして京田辺での生活の魅力を同志社大学へ留学することのメリットへつなげるかが最も大きな問題であった。そこでミーティングを何度も重ね、事務室や太平印刷株式会社からのフィードバックをもとに記載する内容を固めた。しかし、パンフレットのデザインや構成がうまくいかず、何度も修正を行った。私たちはグループの中で1つのセクションを2、3人の担当に分かれてパンフレットのページを担当していたので、当初の案はまとまりのないものであった。しかし、理工学部が実際に配布しているパンフレットを参考にし、フィードバックをもらうことで、1ページの中で写真や情報を好きなように配置しているように見えても、読む流れを意識した作りになっていることを知った。デザインを重視し、1ページ1ページを独立したものとするのではなく、パンフレットを開いた時にどのように見えるか、読み手はどのように感じるのかを考えるこ

とが魅力的なコンテンツ作成に繋がることを学んだ。また、内容も、オフィシャルの制作物として配布するために情報の裏取りや許可の取得が必須であり、さらに、読み手に誤解を与えないような言葉選びを要する場面も多く、何度も修正が必要であり、大変であった。制作過程で、自分達では良いと思っけていても、客観的に見れば不十分であると指摘されることが多々あったが、その意見に耳を傾け、柔軟な発想で制作にあたることで、より優れたパンフレットの制作ができた。限られた時間の中でメンバー全員のスケジュールを合わせるのが困難で、十分な制作時間を持てなかったために、それぞれのメンバーが他のメンバーに頼りきってしまうこともあったが、最終制作物を作る過程では当初よりも活発に全員が意見を出し、議論を重ねることができたのでチームとして働く力や主体性も養えたと思う。

今後期待できる成果の波及効果（1ページ以内）

- 今後、成果物を大学がどのように活用することが望ましいかを記載してください。
- 成果物をさらに波及するための考える取り組みを記載してください。

今回のプロジェクトを通して、京田辺の魅力を十分に盛り込んだパンフレットを制作できた。このパンフレットは、海外の学生に同志社大学の ISTC を留学先の有力候補としてもらうためのきっかけとなることが目的である。したがって、より多くの人にこのパンフレットを見てもらえることが重要だと考える。そこで、同志社大学の ISTC のホームページに pdf 化したパンフレットを記載することが望ましい。

また、Q&A のページや、京田辺からの主要な都市へのアクセス情報などは現在同志社大学にすでに留学している学生にとっても役立つ情報なので、留学生にも配布することもパンフレットをさらに波及するために有益であると考え。そして、理工学部ホームページだけでなく、同志社大学のホームページにもパンフレットの pdf を掲載してもらうことでパンフレットがより多くの人に見てもらえることができる。これらの取り組みにより、ISTC の知名度が上がり、留学を希望する学生の背中を押すきっかけとなると思う。しかし、留学生が日本での生活を送る中で新たな問題が生まれることは容易に想像でき、今回製作したパンフレットの内容だけでは不十分となる時がある。したがって、次年度以降のプロジェクトで、今回製作したパンフレットを活用してより良いものを製作できることを望む。